



進取

14,496人の卒業生の思い

校長 東 徹郎

6月17日は阿久根小学校の開校記念日です。17日には、昼の放送で、開校記念日に関する話をしました。阿久根小学校は、明治9年6月17日に開校しました。明治維新を成し遂げた鹿児島島の偉人、西郷隆盛や大久保利通もまだ生きていた時代です。もちろん阿久根市出身の松木弘安こと寺島宗則も生きて活躍していました。翌年明治10年の2月には西南戦争が始まったころの、そんな時代です。

そんな時代から、戦争やいくつもの自然災害などを経験しながら、多くの先輩方がこの阿久根小学校を巣立っていきました。「華の50歳組」の行事ももう75年も引き継がれてきています。

昼の放送では「進取」の言葉の意味の一つである「新しいことに挑戦すること」そして挑戦を始めたら「途中で諦めず続けること」について話をしました。

来年は創立150年という大きな節目を迎えます。14,496人の先輩方が、後輩に託した「進取」の思いを子供たちにも引き継いでほしいと思います。

「ごはんの一粒に一粒に感謝を込めて」

最近、ニュースなどで「お米の値段が上がっている」「備蓄米が販売された」という話を耳にされた方も多いかと思います。実は、私たちの毎日の食卓に欠かせないお米も、様々な理由で影響を受けています。

近年は、天候不順や肥料代、燃料費の高騰などが重なり、稲作農家の皆さんにとってはとても厳しい状況となっています。田植えから収穫までの長い期間、農家の方は毎日田んぼの様子を見ながら、水の管理、雑草取り、台風や病気への対策など、たくさんの手間と時間をかけてくださっています。

先日、5年生の子供たちは実際に田植えを体験しました（裏面）。泥の中を歩くことの難しさ、苗をまっすぐに植えることの大変さ、そしてなにより、農家の方が丁寧に育てていることを肌で感じる良い機会となりました。

私たちが口にする「ごはん」は、たくさんの人の努力や自然の恵みによってできています。価格の変化はその背景の一部に過ぎません。今こそ、子供たちに改めて「食べ物のありがたさ」「命をつないでくれる食の大切さ」を伝える良い機会です。

「いただきます」「ごちそうさま」の意味を家族で考え、この言葉にほんの少しだけ感謝の気持ちを込めてみませんか？